

序章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の背景

上田市の歴史は古く、奈良時代には国分寺、国分尼寺が建立され、信濃国で最初の国府が置かれた地と考えられている。鎌倉時代には、幕府の信濃守護職である北条氏が市内の塩田平に居を構え、三代 60 年に渡りこの地を治めたことで、全国から学問僧が集まり『信州の学海』と称されるほど繁栄した。そのため安楽寺八角三重塔（国宝）をはじめ、数多くの鎌倉時代の歴史的建造物や寺社が残されている。戦国時代の天正 11 年（1583）には、真田昌幸によって上田城が築かれ、城下町が形成されたことで、政治・文化の中心、物資の集散地としてその後長く栄えることとなった。明治から大正時代にかけては、全国有数の蚕種^{さんしゆ}の生産地となり、「蚕都^{さんと}」として隆盛を極めた。また、当市中央に位置する千曲川に流れ込む神川、依田川、その支流の一带には集落が形成され、祇園祭^{ぎんぐわんさい}や御柱祭^{おんぼしらさい}をはじめとする祭礼、獅子舞や大神楽などの民俗芸能が営まれている。また、集落の中には人々の営みや祭礼に関連する歴史的価値の高い建造物が今も多く残されている。

これらの歴史的文化資源の魅力や価値を後世に継承するため、「上田市文化財保護事業補助金」の創設や「史跡上田城跡保存活用計画」の策定をはじめとした文化財保護活動のほか、「景観条例」の制定や「景観計画」の策定など、さまざまな歴史まちづくりに資する取組を行ってきた。

しかしながら、生活様式の多様化や社会環境の変化に伴い、本市固有の歴史・文化は、後継者不足などの問題に直面し、喪失の危機も生じている。また、人口減少・少子高齢化の進行、SDGs や地球環境への意識の高まりといった情勢の変化に応じた都市構造の見直しが必要となってきた。

このようななか、文化財の保存・活用の実効性を高めるため、様々な人や組織による協働を強調した「上田市文化財保存活用地域計画」を作成するとともに、地域の個性が輝く生活快適都市“上田”を目標に掲げる「上田市都市マスタープラン」を社会の変化にあわせ改訂を進めている。これらの上位計画にあたる第二次上田市総合計画では、都市将来像に「ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる健康都市^{けんこうとし}」を掲げ、市民とともに社会情勢の変化に対応した持続可能なまちを目指すとしている。

2. 計画策定の目的

本市を取り巻く状況を踏まえ「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（以下、歴史まちづくり法）」に基づき、次の目的のため本計画を策定する。

- 歴史的建造物や地域固有の活動・営みを明らかにし、それらを保全・継承することへの機運を高めるとともに、郷土の歴史文化に対する誇りを醸成し、住み続けたいと思えるまちの魅力を高める。

- ▶ 地域のまちづくりと一体となった歴史的文化的遺産の整備・活用を推進し、まちの個性と独自性を輝かせ、観光の振興及び交流人口の増大、ならびに市全体の活性化につなげる。

3. 計画期間

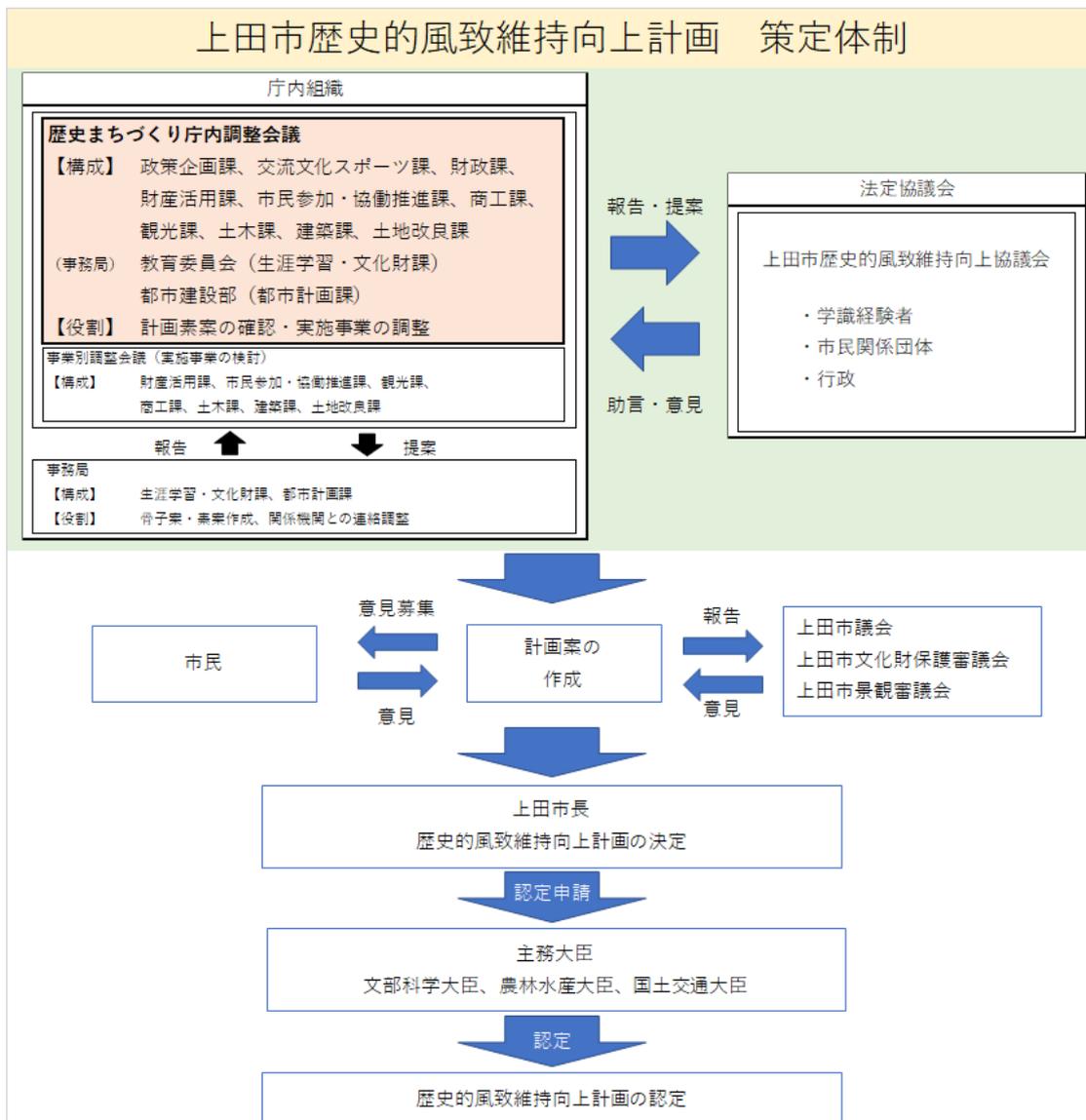
本計画の期間は、令和5年度（2023）～令和14年度（2032）までの10年間とする。また、必要に応じて計画の見直しを行う。

4. 計画の策定体制

生涯学習・文化財課と都市計画課を事務局とし、関係課により組織された庁内調整会議を開催して、計画案を作成した。

また、歴史まちづくり法第11条に基づく法定協議会として、「上田市歴史的風致維持向上協議会」を組織し、計画の検討や合意形成を行った。

パブリックコメントの実施による市民意見の収集や、上田市議会や文化財保護審議会への報告を行い、計画を決定した。



上田市歴史的風致維持向上協議会

種別	所属・役職	氏名	備考
学識経験者	上田市文化財保護審議会（会長） 元長野県立歴史館学芸員	こだま たかふみ 児玉 卓文（◎）	文化財保護行政との整合を図る立場 （専門：考古学・文献学）
	上田市文化財保護審議会 信州大学工学部教授	つちもと としかず 土本 俊和	文化財保護行政との整合を図る立場 （専門：歴史的建築物）
	上田市景観審議会（会長） 長野大学観光ツーリズム学部教授	くまがい けいすけ 熊谷 圭介	景観行政との整合性を図る立場（専門：景観・観光）
市内関係団体等	中央地域の自治会連合会 （末広町自治会長）	いとう かずお 伊藤 和夫	重点区域（中央地域）の自治会から
	西部まちづくりの会 自然・生活環境部会	やまざき ひろし 山崎 洋	重点区域（西部地域）の住民自治組織から
	塩田平ため池を愛する会 （塩田平ボランティアガイドの会） （塩田まちづくり協議会）	にしざわ むめ子 西澤 むめ子	農業文化財群の利活用、日本遺産との連携を検討する立場から
	長野県建築士事務所協会上小支部	ながしま みつお 長島 三夫（○）	古民家や歴史的建造物等の改修を実践する立場から
	上田商工会議所	かさばら しやうじ 笠原 章嗣	歴史的資源をまちの活性化につなげる立場から
	小岩井細工房 役員	こいわい カリナ 小岩井 カリナ	伝統工芸品製造を営む立場から
	会社員 2級建築士	みやじま えみこ 宮嶋 絵美子	古民家リノベーションの普及 まち歩きイベントの主宰として
	ALL 真田魂プロジェクト主宰 博物館協議会委員、山家神社宮司	おしもり まこと 押森 慎	伝統文化の伝承による地域活性化の活動実績から
行政機関	長野県上田建設事務所長		法令で列挙する都道府県の委員
	長野県文化財・生涯学習課長		法令で列挙する都道府県の委員
	上田市教育委員会教育次長		法令で列挙する市町村の委員
	上田市都市建設部長		法令で列挙する市町村の委員
オブザーバー	国土交通省関東地方整備局 建政部計画管理課長		

委員 15 名，オブザーバー 1 名

◎：会長，○：副会長

5. 計画策定の経緯

日程	内容
令和2年11月14日	歴史まちづくり庁内調整会議
令和3年3月	上田市文化財保護審議会（書面開催）
令和4年1月31日	歴史まちづくり庁内調整会議
令和4年3月14日	第1回歴史的風致維持向上協議会
令和4年4月18日	第2回歴史的風致維持向上協議会
令和4年8月9日	第3回歴史的風致維持向上協議会
令和4年9月16日 ~10月16日	パブリックコメント